

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上木崎小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。</p> <p><指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動を学級全体で設定しにくい。</p>	<p>朝学習中の「朝学習」の時間において基礎的・基本的な学習内容の反復・習熟に取り組む。(月1回程度実施)</p> <p>「主体的・協働的に学びを深める上木っ子の育成～話し合い活動の充実による思考力の向上～」の学校での研修において授業中の話し合い活動を効果的に取り入れ、児童が共同的に学び課題を解決する時間を設定する。(週1回程度)</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 算数において、図や表から式を立てたり、関係を説明したりすることに課題が見られた。</p> <p><指導上の課題> 児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。</p>	<p>「主体的・協働的に学びを深める上木っ子の育成～話し合い活動の充実による思考力の向上～」の学校での研修において授業中の話し合い活動を効果的に取り入れ、児童が共同的に学び課題を解決する時間を設定する。(週1回程度)</p> <p>教員による評価について研修し、評価方法などを学ぶ。(年間を通して)</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>① 結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>② 詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③ 分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語、算数ともに全体的には、知識・技能の定着が図れている。また、無回答率も低く、最後まで問題に取り組もうとする姿勢が見られた。</p> <p>国語では漢字の問題に課題が見られた。</p> <p>算数では問題文や図形から数値を読み取りながら解く問題に課題が見られた。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語では、資料を読み取りながら、事実と自分の考えを分け表現することに課題が見られた。</p> <p>算数では、図をもとに、自分の考えを説明する問題に課題が見られた。解答類型を見ると、答えを理解しているが、答えに至るまでの説明が足りない児童が多かった。図や数、考えを説明する活動を重視したい。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
- ② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>朝学習中の「朝学習」の時間を月に1回以上設定することができている。</p> <p>授業では、児童の話し合いの時間を設定することができている。今後より効果的な話し合いができるように校内での研修を行っていく。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>授業では、児童の話し合いの時間を設定することができている。今後より効果的な話し合いができるように校内での研修を行っていく。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上木崎小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	市の学力調査においては、昨年度よりも正答率が下がっている教科が多かった。ICTを活用した反復学習に加え、それを評価しながら指導に活かし知識・技能の定着を図っていく。
思考・判断・表現	全国の学習状況調査においても、市の学力調査においてもどの教科でも正答率が高かった。来年度も継続して、学んだことを使いながら考える授業を展開していく。
主体的に学習に取り組む態度	全国学習状況調査の時よりも、市の学力調査においては、無回答率が減少した。来年度も継続して普段の学習から学びの足跡を残すように指導し、あきらめず問題に取り組める児童を育てたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より向上させる。	⇒ 児童一人ひとりの実態に合わせ、ドリルパークやスタディサプリを活用した反復学習に取り組ませることで、国語における「知識・技能」の習熟を図る。定期的に児童の学習履歴を確認する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より算数の「思考・判断・表現」の平均無解答率を下げる。	⇒ 文章題から図や表を使って立式する活動を意図的に行い、その理由を考えさせることで、算数における「思考・判断・表現」の向上を図る。その際、友だちとの協働的な学びを通して無解答率を下げる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 学習への興味、関心を高めるため、授業の導入と展開を工夫し、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果と比べると一学年だけ上昇した。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より算数に限らず、どの学年どの教科においても無回答率は低かった。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「主体的対話的で深い学び」の質問項目では、肯定的な回答が平均91%であった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語、算数ともに正答率が高い。算数の2つの三角形の面積を比べる問題では、図形から、2つの三角形の底辺と高さが等しいことを読み取ることに課題がみられた。
思考・判断・表現	国語、算数ともに正答率が高い。国語のグラフ等のデータから自分の考えを書く問題では、グラフからわかることの読み取りとその表現に課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	国語、算数ともに正答率が高いのだが、反面、無解答率も高い。両教科ともに1問につき平均5%以上の児童が無解答で解答し、算数では最大16%の児童が無解答の問題もあった。普段の学習から学びの足跡を残すように指導し、あきらめず問題に取り組める児童を育てたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比較すると、国語、算数ともに知識・技能は若干の下降、思考・判断・表現は若干の上昇であった。国語では、主語と述語の理解、算数では、単位の関係について課題が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比較すると、国語、算数ともに知識・技能、思考・判断・表現も上昇がみられた。国語では、主語と述語の理解、算数ではデータからのグラフの選択に課題が見られた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比較すると国語、算数、社会では思考・判断・表現の値が大きく上昇した。知識・技能については全教科で変化なしが若干の下降であった。算数の単位量あたりの大きさを使った問題や、理科の水の音だ変化、電磁石についての問題に課題が見られた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査と比較すると理科の知識・技能、国語と理科の思考・判断・表現が上昇した。算数の問題場面を把握し、式をたてることに課題が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 学習への興味、関心を高めるため、授業の導入と展開を工夫し、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。自力解決の場を設定し、その際には学びの足跡を残すように指導する。